



無断転写転載は法律で禁じられています。

Jackie

(チリ、米、100分、1月26日公開)



あらすじ

優美で知的、国民に愛されるファーストレディとしてホワイトハウスを優雅な社交の場に塗り替えたJackie (Natalie Portman) は1963年11月22日、共に訪れたダラスで大統領 John F. Kennedy (Caspar Phillipson) を自分の目の前で殺害され、愛する良人だけでなく社会的な役割から公邸まで、そのすべてを失ってしまう。大統領に相応しい埋葬を何としても行いたいと望み、茫然自失から立ち上がるJackieだったが、もうファーストレディではないのにと周囲から疎まれ…。



1994年に亡くなったJacqueline Kennedyの人生の重大な一幕を彼女の視点から、Pablo Larraín監督が丁寧に描く。同監督の「Black Swan」でもそうであったように、人物の複雑な心情が、言葉だけに頼らず繊細かつある一定の距離感で表わされていて、悲壮感や同情にとどまらず想いを馳せることができる。そして事の次第は、Jackieが大統領の埋葬から時間をおかずジャーナリストの取材を受ける形で語られていて、回想などを交え時間の流れが前後する事実や、錯綜する彼女の思いを追いかけて易い。

当時歴代3番目と言う30歳半ばの若さでホワイトハウスへ移り住み、Chanelスーツを身に纏い、Elizabeth TaylorやMarilyn Monroeに負けずとも劣らぬ人気を誇った、その一方で、政治家の妻として良人を支えるため、テレビ出演など様々な課題に取り組み、しかしその良人の不倫問題や死産に苛まれたJackie。幸運と不運に次々と見舞われ、Kennedy暗殺から5年後に25歳年上の大富豪と再婚した彼女の気持ちを汲める気持ちになるお薦めの1本です。

と、今回はここまで。次回作もお楽しみに。

